序

年末恒例の風物詩となった「今年の漢字」，2018年は2004年と同じ「災」であった。その年に，スウェーデン議会の前で15歳の若者が「気候のための学校ストライキ」という看板を掲げて気候変動対策強化を訴え，世界の舞台に登場したことは，ある種の必然であったのかもしれない。

日本国民の間で「地球温暖化」は既成事実として理解されるようになったように思われる。しかし，温暖化が叫ばれる中にあって，2018年１月22日から23日にかけて南岸低気圧が猛烈に発達して関東地方の平野部から東北地方の太平洋まで大雪となり，東京都心でも23㎝の積雪が記録された。さらに発達した爆弾低気圧の影響で，日本列島は猛烈な寒波に覆われ，各地で観測史上最低の気温を記録し，西日本から北日本まで日本海側では暴風雪に見舞われた。冬の間は，どこかの大統領が垂れ流す「温暖化など存在しない」というフェイクニュースを信じたくなるような気候であった。しかし，６月末から停滞した梅雨前線と台風７号の影響で九州から北海道まで広い範囲で記録的な大雨が続き，岡山県を含む11府県に特別警報が発令される事態となった。「平成30年７月豪雨」と名付けられたこの大雨で，災害が少ないと言われてきた岡山県においても各地で大規模な洪水が発生し，真備町では多くの方々が亡くなるなど甚大な被害がもたらされ，当センターが管理にかかわってきた半田山でも斜面の崩落が起こった。

その後は晴れた日が続き，災害級の猛暑となって干ばつ傾向となり，８月の岡山の降水量は平年のわずか20％に過ぎなかった。しかし，９月４日には台風21号が徳島，神戸に上陸して猛烈な暴風雨となり，関空が高潮と連絡橋の破損によって閉鎖に追い込まれた。その間，６月18日には大阪府北部地震，９月６日には北海道胆振東部地震が発生し，大きな被害をもたらした。温暖化による「異常気象」が日常化し，天変地異によって文明社会のもろさと人類の無力さを思い知らせれた年であった。

平成28年度から導入された４学期・60分授業制が３年目となり，教員，学生ともに少し馴染んできたようにも思える。しかし，農学部キャンパスに隣接し，恵まれた条件にある当センターであっても，午後２時開始という時間的制約の影響は避けられず，冬季のフィールド実習実施には問題を残している。

平成21年４月に設置されたグッドジョブ支援センターからのスタッフの受け入れを始めて，はや10年が過ぎた。今やグッドジョブ支援センターからの支援は当センターの運営上欠かせないものとなっている。教育研究に適した広大な農場を預かり，活用するという社会的責務を果たし続けるため，また，教育目標を達成しつつ，国連が提唱するSDGs（Sustainable Development Goals）に少しずつでも近づくため，岡山大学内外の皆様のご支援，ご協力を切にお願いする次第である。

この度，平成30年度のセンターの運営概要と研究報告をセンター報告第41号として取り纏めた。関係各位にご高覧いただき，ご意見を頂戴できれば幸いである。

平成31年３月

岡山大学農学部附属山陽圏フィールド科学センター
センター長　吉田　裕一